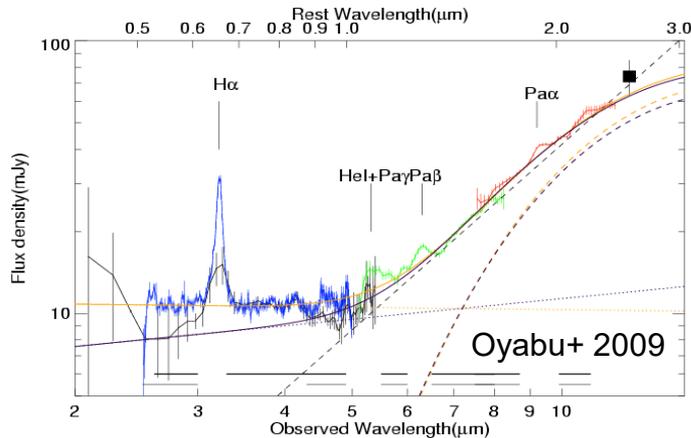


# 〈赤外線で探る宇宙〉

【キーワード: 赤外線天文学, 装置開発, 教育情報工学】

教授 大藪進喜

「あかり」赤外線衛星で分光観測した  
120億年前の超大質量ブラックホール



インド  
1m 気球望遠鏡



インド気球実験の打ち上げ風景



【プロフィール】

2003年4月: 東京大学理学系研究科天文学教育研究センター

機関研究員

2005年4月: 宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所

招聘職員

2010年4月: 国立天文台・ハワイ観測所 AO Scientist

2010年8月: 名古屋大学・理学研究科 助教

2016年4月: 名古屋大学・教養教育院 講師

2019年10月: 徳島大学・教養教育院 准教授

2024年10月: 徳島大学・教養教育院 教授

【研究概要】

赤外線での宇宙観測は、透過力、低温物質への感度から、現代の宇宙研究には欠かせない。しかしながら、望遠鏡・観測装置を極低温に冷やす必要がある困難さから、その進展は技術開発に依存している。赤外線観測装置の開発からはじめ、気球望遠鏡、人工衛星を駆使して、大質量星形成領域の成り立ち、宇宙における星形成銀河の役割の理解、超大質量ブラックホールの形成・進化を明らかにしようとしている。

分野: 天文学

専門: 天文学

E-mail: [shinki\\_oyabu@tokushima-u.ac.jp](mailto:shinki_oyabu@tokushima-u.ac.jp)

Tel. 088-656-7236 内線3613

HP: <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/359984/profile-ja.html>